資治通鑑 第 078 巻

令和 4 年 8 月 7 日

【魏紀十】　起玄黓敦牂，盡瘁逢涒灘，凡三年。

■魏、蜀蜀、呉呉、続国訳漢文大成．経子史部 第 5 巻 082p

元皇帝下景元三年（壬午，２６２年）

呉秋，八月，乙酉(21-6+1=１６日)，**呉主**は**皇后**の**朱氏**を立てる，**朱公主**之女也。戊子（24-6+1=１９日），子の**霬**を立てて**太子**と為す。

■蜀［姜維と黄皓の緊張、羌維は沓中に釘付け］漢の大将軍の**姜維**は將に軍を出さんとし，右車騎將軍の**廖化**は曰く、

「兵は戢(おさ)めざれば，必ず自ら焚く（左傳にあり、魯の襄仲の言）とは，**伯約**（姜維の字）之謂い也。智は敵に出でず而して力は寇よりも少なし，之を用いて厭く無く，將に何を以て存するや！」

冬，十月，**維**は洮陽（洮水の北、甘粛省蘭山道臨潭県、現・甘南チベット族自治州臨潭県、又定西市臨洮県洮陽鎮有り）に入寇し，**鄧艾**は與に侯和（洮陽の近辺だが不明）に於いて戰い，之を破り，**維**は退きて沓中（甘粛省蘭山道臨潭県西南の沓中戍、現・甘南チベット族自治州臨潭県）に在り。初め，**維**は羈旅（旅行、漢に降るは 71 巻明帝太和元年）を以て漢に依り，身は重任を受け，(5-083p) 兵を興すこと累年，功績は立たず。**黄皓**は事を中に用い，右大將軍の**閻宇**と親善し，陰かに**維**を廢して**宇**を樹てんと欲す。**維**は之を知り，**漢主**に言って曰く、

「**皓**は奸巧にして專恣なり，將に國家を敗らんとす，之を殺さんことを請う！」

漢主は曰く、

「**皓**は趨走（宦官）の小臣なる耳，往(まさ)に**董允**（74 巻邵陵厲公正始六年にあり）は毎に切齒し，吾は常に之を恨む，君は何ぞ意に介するに足らん！」

維は**皓**が枝附き葉連なる（勢力盛ん）を見，失言を懼れ，遜辭し而して出で，**漢主**は**皓**に敕して**維**に詣りて陳謝せしむ。**維**は是に由り自ら疑い懼れ，洮陽より返り，因りて麥を沓中に種(う)えんと求め，敢えて成都に歸らず。（司馬昭は羌維が沓中に釘付けなので、蜀の攻略を行えた）

呉［呉主は張布に配慮し、祭酒を入れず］**呉主**は**濮陽興**を以て丞相と為し，廷尉の**丁密**、光祿勳の**孟宗**を左右の御史大夫と為す。初め，**興**は會稽太守為り，**呉主**は會稽に在り，**興**は之を厚く遇す。左將軍の**張布**は嘗て會稽王（孫休は琅邪王のままで、會稽に移る、琅邪王とするべし）の左右の督將為り，故に**呉主**の即位するや，二人は皆な貴寵せられて事を用いる。**布**は宮省を典り，**興**は軍國に關し，佞巧を以て更に相い表裡す，呉人は失望する。**呉主**は讀書を喜び，博士祭酒（前漢に五経博士に僕射一人あり、後漢は転じて祭酒と為す、官に祭酒とするは皆一位の元長なり）の**韋昭**、博士の**盛沖**と講論せんと欲し，**張布**は**昭**、**沖**の切直なるを以て，其の入侍すれば，己の陰過を言うと恐れ，固く諫めて之を止める。**呉主**は曰く、

「孤之學に涉(わた)るは，群書略(ほ)ぼ遍(あまね)く，但だ**昭**等と舊聞を講習せんと欲す，亦た何の損する所あらん！君は特に當に**昭**等の臣下の奸慝を道わんことを恐れ，故に入ら令むるを欲せざる耳。此の如き之事は，孤は已に自ら之に備える，**昭**等を須ちて然る後に乃ち解せざる也。」

布は惶（続は皇）恐して陳謝し，且つ言わく、

「懼らくは政事を妨げん。」

呉主は曰く、

「王務（王事）、學業は，其の流は各々異なり，相い妨げざる也。此れ非と為す所無し，而るに君は以為えらく宜しからずと，是を以て孤は及ぶ所有る耳。圖らずも君は今日事に在り（官に在りて事に任ずる）更に此を孤に行う也（蓋しこれを孫綝に比す。綝が権を擅にする時、呉主をして儒生を親近せしめざりきを以て也），良（まこと）に甚だ取らず！」

布は拜表（表は衍ではないか）して叩頭す。**吳主**は曰く、

「聊（いささ）か相い開悟（悟りを開く）する耳，何ぞ叩頭するに至る乎！君之忠誠の如きは，遠近の知る所なり，吾が今日之巍巍は，皆な君之功也。《詩》（大雅蕩の篇の辭）に云わく、『初め有らざるは靡（な）し，克く終わり有るは鮮し。』之を終わるは實に難し，君は其れ之を終わるべし！」

然れども**吳主**は**布**が疑い懼れんことを恐れ，卒に**布**の意の如く，其の講業を廢し，復た**昭**等を入れ使めず。

■［竹林七賢の老荘思想］譙郡の**嵇康**は，文辭は壯麗にして，好みて**老**、**莊**を言い而して奇を尚び任俠なり，陳留の**阮籍**、**籍**の兄の子の**咸**、河內の**山濤**、河南の**向秀**、琅邪の**王戎**、沛人の**劉伶**と特に相い友善し，號して竹林七賢という。皆な虛無を崇尚し，禮法を輕蔑し，酒を縱にして昏酣し，世事を遺落す。

■［司馬昭は阮籍の才を愛す］**阮籍**は步兵校尉と為り，其の母の卒するや，**籍**は方に人と圍棋し，對する者は止めるを求め，**(5-084p) 籍**は留めて與に賭（勝負）を決す。既に而して飲酒すること二斗，聲を舉げて一たび號し，吐血すること數升，毀瘠（きせき）（悲しみなどのあまり、身体をこわしやせ衰えること）して骨立つ（瘠せ衰える様）。喪に居りて，飲酒は平日に異なる無し。司隷校尉の**何曾**は之を惡み，**籍**を**司馬昭**の座に於いて面質（直面して質問する）して曰く、

「卿は情を縱にし、禮に背き、俗を敗る之人なり，今忠賢は政を執り、名實を綜核（まとめる）す，卿之曹（ともがら）の若きは，長ず可からざる也！」

因りて**昭**に謂って曰く、

「公は方に孝を以て天下を治める，而るに**阮籍**が重哀を以て公座に飲酒食肉するを聽せば，何を以て人に訓えるや！宜しく之を四裔（四方の辺境の地）に擯（しりぞ）け，華夏を污染せ令む無かるべし。」

昭は**籍**の才を愛し（司馬昭が九爵を譲る時、阮籍は公卿に代わりて勧進牋を為。辭は甚だ清壯なり），常に之を擁護す。**曾**は，**夔**之子也。

■［阮咸・劉伶・嵇康・山濤］**阮咸**は素より姑の婢を幸す。姑は婢を將いて去り，**咸**は方に客に對す，遽に客の馬を借り而して之を追い，累騎（二人乘り）し而して還る。**劉伶**は酒を嗜み，常に鹿車（小車）に乘り，一壺の酒を攜え，人をして鍤を荷ないて之に隨わ使め，曰く、

「死すれば便ち我を埋めよ。」

當時の士大夫は皆な以て賢と為し，爭いて之を慕效（羨慕してまねる）し，之を放達（気ままで物事にこだわらない）と謂う。

■［鐘會は嵇康を誹り、司馬昭は殺す］**鐘會**は方に**司馬昭**に寵有り，**嵇康**の名を聞き而して之に造（いた）り，**康**は箕踞（両足を投げ出して座ること。その形が箕みに似ている）し而して鍛（鍛冶する、性巧みにして好む）え，之が禮を為さず。**會**は將に去らんとし，**康**は曰く、

「何の聞く所あり而して來たり，何の見る所あり而して去るや？」

會は曰く、

「聞く所を聞き而して來たり，見る所を見而して去る！」

遂に深く之を銜む。**山濤**は吏部郎為り，**康**を舉げて自ら代らしむ。**康**は**濤**に書を與え，自ら、
「流俗に堪えず」
と說き，而して**湯**、**武**を非薄（才能に乏しい）す。**昭**は聞き而して之を怒る（湯武は革命す、司馬昭はそれで嫌う）。
康は東平の**呂安**と親善し，**安**の兄の**巽**は**安**を不孝なりと誣い，**康**は為に其の然らずを證す。**會**は因りて**康**を譖り、
「**康**は嘗て**毌丘儉**を助けんと欲し，且つ**安**、**康**は世に盛名有り，而して言論放蕩にして，時に害し教えを亂る，宜しく此に因りて之を除くべし。」
昭は遂に**安**及び**康**を殺す。**康**は嘗て隱者の汲郡（晉の太子二年に河内を分けて置く）の**孫登**に詣り，**登**は曰く、
「子は才多く識寡し，難き乎今之世に免かるるを矣！」

【魏の蜀討伐】
■［羌維への刺客を中止］**司馬昭**は**姜維**の數々寇を為すを患い，官騎の**路遺**は刺客と為りて蜀に入るを求め，從事中郎の**荀勗**は曰く、
「明公は天下の宰為り，宜しく正義に杖り以て違貳（意思背離と為る，二心有り）を伐つべし，而るに刺客を以て賊を除くは，四海に刑する所以に非ざる也。」
昭は之を善しとする。**勗**は，**爽**（荀爽は淑の子、漢末に公と為る）之曾孫也。
■［鐘會のみ司馬昭の蜀討伐に同意］**昭**は大舉して漢を伐たんと欲し，朝臣は多く以て可からずと為す，獨り司隸校尉の**鐘會**は之を勸める。**昭**は衆を諭して曰く、
「壽春を定めてより已來，役を息むこと六年，兵を治め甲を繕い，以て二虜（呉蜀）に擬す。今呉地は廣大に而して下濕なり，之を攻めるは功を用いるに差(やや)難し，先ず巴蜀を定めるに如かず，三年之後，流れに順う之勢いに因りて，水陸は並び進み（5-065p），此れ虢（春秋に晉の獻公は虢を滅ぼす）を滅ぼし虞を取る之勢い也。蜀の戰士を計るに九萬なり，成都に居守し及び他境に備えるは四萬を下らず，然らば則ち餘衆は五萬に過ぎず。今**姜維**を沓中に絆ぎ，東顧するを得ざら使め，直ちに駱谷を指し，其の空虚之地に出でて以て漢中を襲い，**劉禪**之暗きを以て，而して邊城は外に破れ，士女は內に震えば，其の亡びんを知る可き也。」
乃ち**鐘會**を以て鎮西將軍と為し，關中を都督せしむ。征西將軍の**鄧艾**は以て蜀の未だ釁有らずと為し，屢々異議を陳べる。**昭**は主簿の**師纂**をして**艾**の司馬と為ら使め、以て之を諭し，**艾**は乃ち命を奉ず。
呉［羌維は鐘會を警戒、黃皓は無視］**姜維**は**漢主**に表す、
「**鐘會**は兵を關中に治すと聞く，進取を規らんと欲す，宜しく並びて左右の車騎（將軍）の**張翼**、**廖化**を遣わして，諸軍を督して分けて陽安關口（陽平關、陝西省漢中道沔県、現・漢中市勉県褒城鎮）及び陰平之橋頭（甘肅省渭川道文県、現・隴南市文県）を護らしめ，以て未然に防ぐべし。」
黃皓は巫鬼を信じ，謂えらく敵は終に自ら致らず，**漢主**に啟し其の事を寢む，群臣は知る莫し。

元皇帝下景元四年（癸未，２６３年）

■春，二月，覆た**司馬昭**に命じ爵位を進めること前の如し，又た辭して受けず。

呉 ■［交趾太守の孫謂の反乱］呉の交趾太守の**孫謂**(そんしょ)は貪暴にして，百姓の患うる所と為る。會々**呉主**は

察戰（呉の官職）の**鄧荀**を遣わして交趾に至らしめ，**荀**は擅に孔爵（孔雀）三十頭を調して建業に送り，民は遠役を憚り，因りて亂を作すを謀る。夏，五月，郡吏の**呂興**等は**謐**及び**荀**を殺し，（魏に）遣使して來たりて太守及び兵を請い，九真、日南は皆な之に應じる。

■［魏は大挙して蜀に侵入］諸軍に詔して大擧して漢を伐たしめ，征西將軍の**鄧艾**を遣わして三萬餘人を督して狄道より甘松、沓中に趣き，以て**姜維**を連綴（牽制）せしむ。雍州刺史の**諸葛緒**は三萬餘人を督して祁山より武街橋頭（甘粛省渭川道成県、現・隴南市成県）に趣き，**維**の歸路を絕たしむ。**鐘會**は十餘萬の衆を統べて分けて斜谷、駱谷、子午谷より漢中に趣く。廷尉の**衛瓘**（武帝・文帝・明帝に歴事する）を以て節を持して**艾**、**會**の軍事を監し，鎮西軍司を行わしむ。**瓘**は，**覬**之子也。

■［劉寔は鐘會・鄧艾は還らずと予言］**會**は幽州刺史の**王雄**（勇者を遣わして軻比能を刺殺せしむ）之孫の**戎**を過りて，問う、

「計は將たまた安くに出でんや？」

戎は曰く、

「道家に言有り，『為し而して恃まず。』（老子の言）成功の難きに非ず，之を保つの難き也。」

或は以て參相國軍事の平原の**劉寔**に問いて曰く、

「**鐘**、**鄧**は其れ蜀を平らげん乎？」

寔は曰く、

「蜀を破るは必ず矣，而るに皆な還らず。」

客は其の故を問い，**寔**は笑い而して答えず。

■秋，八月，軍は洛陽を發す（5-086p），大いに將士に賚（賜る）い，師を陳し衆に誓う。將軍の**鄧敦**は蜀の未だ討つ可からざると謂い，**司馬昭**は斬り以て徇う。

蜀■［蜀の迎撃態勢、鐘會は二城を囲む］漢人は魏兵の且に至るを聞き，乃ち**廖化**を遣わし兵を將いて沓中に詣り，**姜維**の繼援を為さしめ，**張翼**、**董厥**等は陽安關口に詣り，諸圍の外助を為さしむ。大赦し，改元して炎興とす。諸圍に救して皆な戰うを得ず，退きて（羌維の策を採用）漢、樂の二城を保たしめ，城中は各々兵五千人に有り。**翼**、**厥**は北に陰平に至り，**諸葛緒**は將に建威に向わんとすると聞き，留め住すること月餘之を待つ。**鐘會**は諸軍を率い平行して漢中に至る。九月，**鐘會**は前將軍の**李輔**をして萬人を統べて**王含**を樂城に圍ま使め，護軍の**荀愷**をして**蔣斌**を漢城に圍ましむ。**會**は徑ちに過ぎ西して陽安口に趣き，人を遣わして**諸葛亮**の墓（沔陽に葬られる）を祭らしむ。

蜀■［蔣舒は裏切りて胡烈に降り、關口は破られる］初め，漢の武興（漢の武都の沮県、陝西省漢中道略陽県の東110 里、現・漢中市略陽県）の督の**蔣舒**は事に在りて（その功績は）稱せらるる無し，漢朝は人をして之に代ら令め，將軍の**傅僉**を助けて關口を守ら使め，**舒**は是に由りて恨む。**鐘會**は護軍の**胡烈**をして前鋒と為し，關口を攻め使む。**舒**は詭りて**僉**に謂って曰く、

「今賊は至りて擊たず而して城を閉じて自ら守る，良圖に非ざる也。」

僉は曰く、

「命を受けて城を保つ，惟だ全くするを功と為す。今命に違えて出でて戰い，若し師を喪い國に負けば，死するとも益無からん矣。」

舒は曰く、

「子は城を保ち全くするを獲るを以て功と為し，我は出でて戦い敵に克つを以て功と為す，請う各々其の志を行わん。」

遂に其の衆を率いて出る。**僉**は其の戦わんことを謂う也，備えを設けず。**舒**は其の衆を率いて迎えて**胡烈**に降り，**烈**は虚に乗りて城を襲い，**僉**は格鬥し而して死す，**僉**は，**彤**（死すること 69 巻文帝黄初三年にあり）之子也。**鐘會**は關口の已に下るを聞き，長驅し而して前み，大いに庫藏積穀を得たり。

蜀■［蜀軍の後退］**鄧艾**は天水（前漢は天水、後漢は漢陽、魏は天水）太守の**王頎**（245 年正始 6 年玄菟太守となり、毌丘倹の命を受け、高句麗の憂位居を追い、沃沮を過ぎ 1000 里、粛慎の南境に達し、石にその功績を刻んだ。247 年正始 8 年、帯方太守として張政らを卑弥呼の倭国に派遣）を遣わして直ちに**姜維**の營を攻め，隴西太守の**牽弘**をして其の前を邀えしめ，金城太守の**楊欣**をして甘松に趣かしむ。**維**は**鐘會**の諸軍が已に漢中に入るを聞き，兵を引いて還る。**欣**等は追躡し強川口（嶓冢山の南にあり、一名西傾山、甘粛省蘭山道臨漳県の西、現・甘南チベット族自治州臨潭県）に於いて，大いに戦い，**維**は敗走す。**諸葛緒**の已に道を塞ぎ橋頭に屯すと聞き，乃ち孔函谷（甘粛省渭川道武都県、現・隴南市武都区）より北道に入り，**緒**の後ろに出でんと欲す。**緒**は之を聞き，卻き還ること三十里。**維**は北道に入ること三十餘里，**緒**の軍の卻くを聞き，尋いで還り，橋頭より還（続は過）り，**緒**は趣（うなが）して**維**を截たんとし，較（おく）れること一日にして及ばず。**維**は遂に還りて陰平（四川省西川道廣漢県、現・徳陽市広漢市）に至り，士衆を合集し，關城に赴かんと欲す。未だ到らず，其の已に破れるを聞き，退きて白水（四川省嘉陵道昭化県、現・広元市元壩区、また甘粛省渭川道武都県、現・隴南市武都区にまたがる）に趣き，**廖化**、**張翼**、**董厥**等に遇い，兵を合わせて劍閣（四川省嘉陵道劍閣県、現・広元市劍閣県）を守り以て**會**を拒む。

■安國の元侯の**高柔**は卒す。

蜀 呉［呉は蜀を救援］冬，十月，漢人は急を呉に告げる。甲申（20-29=日），**呉主**は大將軍の**丁奉**をして諸軍を督して壽春に向かわ使む。(5-087p) 將軍の**留平**は**施績**に南郡に就き，兵の向かう所を議す。將軍の**丁封**、**孫異**は沔中（魏の境、未だ至らず）に如き，以て漢を救う。

【司馬昭政権の充実】

■［司馬昭進爵］詔して征蜀の諸將の捷を獻ずること交々至るを以て，覆た大將軍の**昭**に命じて位を進め，爵賜すること一に前詔の如く，**昭**は乃ち命（相国・晉公・九爵）を受ける。

■［大器晩成の魏舒を相國參軍とす］**昭**は任城の**魏舒**を辟して相國參軍と為す。初め，**舒**は少き時は遲鈍にして質樸（飾り気無く素直、続は欠如），鄉親（鄉里の親戚）の重んずる所と為らず，從叔父の吏部（続、事部×）の**郎衡**は，當世に名有り，亦た之を知らず，水碓（水車）を守ら使む，毎に歎じて曰く、

「**舒**は數百戸の長（小邑の長）に堪えれば，我が願いは畢（お）わらん矣！」

舒は亦た以て意に介さず，皎厲（顕白厳峻）之事を為さず(魏舒が凡庸の言動を為し居る)。唯だ太原の**王乂**は**舒**に謂って曰く、

「卿は終に當に台輔と為るべし。」

常に其の匱乏（危急欠乏）を振（すく）い，**舒**は受け而して辭せず。年は四十餘にして，郡は上計掾を擧げ，孝廉を察す。宗黨は**舒**が學業無きを以て，勸めて就かざら令め，

「以て高きを為す可し。」

舒は曰く、

「若し試し而して中たらざれば，其の負くは我に在り，安んぞ虚しく就かざる之高きを竊み以て己の榮と為す可けん乎！」

是に於いて自ら課し，百日に一經を習い，因り而して對策して第に升り，後將軍の**鐘毓**の長史に累遷す。**毓**は參佐（參軍及び諸々の佐吏）と射る毎に，**舒**は常に為に籌を畫し而して已む。後に朋人（射は両人を以て朋と為す）足らざるに遇い，**舒**を以て數を滿たし，**舒**は容範（風采）閑雅（しとやかで優雅）にして，發して中たらざるは無く，舉坐（滿座）愕然たり，敵する者有る莫し。**毓**は歎き而して謝して曰く、

「吾之以て卿の才を盡くすに足らざるは，此の射の如き有り矣，豈に一事のみあらん哉！」

相國の參軍と為るに及び，府朝（府廷）の碎務（些細な事務）は，未だ嘗て是非を見ず。廢興の大事の，衆人能く斷ずる者莫きに至りては，**舒**は徐ろに為に之を謀（はか）る，多く衆議之表に出る。**昭**は深く之を器重しとす。

■癸卯（39-29+1=１１日），**皇后**の**卞氏**を立てる，昭烈將軍の**秉**之孫也。

【蜀主は鄧艾に降伏】

■**［諸葛緒は鐘會に兵を奪われる］鄧艾**は進みて陰平に至り，精鋭を簡選して，**諸葛緒**と與に江油（四川省西川道江油県、現・綿陽市江油市）より成都に趣かんと欲す。**緒**は以えらく本は節度を受けて**姜維**を邀え，西行するは本詔に非ずと，遂に軍を引いて白水（白水關、嘉陵道昭化県、現・広元市元壩区）に向かい，**鐘會**と合す。**會**は軍勢を專らにせんと欲し，密に白す、

「**緒**は畏懦にして進まず」

と，檻車をもって征（続は徴）還し，軍は悉く**會**に屬す。

■蜀**［鄧艾は間道より成都を急襲］姜維**は營を列して險を守り，**會**は之を攻め，克つ能わず。糧道は險遠にして，軍食は乏しく，引いて還らんと欲す。**鄧艾**は上言す、

「賊は已に摧折す，宜しく遂に之に乘ずべし。若し陰平より邪徑（間道）に由り漢の德陽亭（嘉陵道遂寧県の東南、現・德陽市旌陽区）を經て涪に趣き，劍閣の西に出でること百里，成都を去ること三百餘里なり，奇兵は其の腹心を沖（続は衝）き，其の不意に出れば，劍閣之守りは必ず還りて涪（四川省西川道綿陽県、現・綿陽市涪城区）に赴かん，則ち**會**は軌を方（なら）べて而して進まん，劍閣之軍は還らざれば，則ち涪に應ずる之兵は寡し矣。」

遂に陰平より無人之地を行くこと七百餘里，山を鑿ち道を通し，橋閣を造作す。山は高く谷は深く，至って艱險と為り **(5-088p)**，又た糧運は將に匱（とぼ）しからんとし，危殆に瀕す。**艾**は氈を以て自ら裹み，推轉し而して下る。將士は皆な木を攀じり崖に緣り，魚貫（一列に相継ぎ）し而して進む。先登は江油に至り，蜀の守將の**馬邈**は降る。**諸葛瞻**は諸軍を督して**艾**を拒み，涪に至り，停住して進まず。尚書郎の**黃崇**は，**權**之子也，屢々**瞻**に宜しく速かに行きて險に據り，敵に平地に入るを得令むる無しを勸め，**瞻**は猶豫して未だ納めず。**崇**は再三之を言い，流涕するに至り，**瞻**は從う能わず。**艾**は遂に長驅し而して前み，**瞻**の前鋒を擊破し，**瞻**は退きて綿竹に往まる。**艾**は書を以て**瞻**を誘いて曰く、

「若し降る者なら，必ず表して琅邪王と為さん。」

瞻は怒り，**艾**の使いを斬り，陣を列して以て**艾**を待つ。**艾**は子の惠唐亭候の**忠**等を遣わして其の右に出でしめ，司馬の**師纂**等をして其の左に出でしむ。**忠**、**纂**は戰いて利あらず，並びて引いて還り，曰く、

「賊は未だ擊つ可からず！」

艾は怒りて曰く、

「存亡之分かれるは，此の一舉に在り，何の不可か之れ有らん！」

忠、**纂**等を叱り，將に之を斬らんとす。**忠**、**纂**は馳せ還りて更に戰い，大いに破り，**瞻**及び**黃崇**を斬る。**瞻**の子の**尚**は歎いて曰く、

「父子は國の重恩を荷ない，早く**黃皓**を斬らず，國を敗り民を殄ぼさ使む，生を用いて何をか為さん！」
馬を策して陣を冒し而して死す。

■蜀［魏呉いずれに降るか、魏主鄧艾に降る］漢人は魏兵が卒(にわか)に至ると意わず，城守調度を為さず。**艾**が已に平土に入るを聞き，百姓は擾擾として，皆な山野（山澤）に迸り，禁制す可からず。**漢主**は群臣をして會議せ使め，或は以為く、
「蜀之吳とは，本は與國為(た)り，宜しく吳に奔る可し。」
或は以為く、
「南中の七郡（越巂・朱提・牂柯・雲南・興古・建寧・永昌）は，阻險にして斗絕し，以て自ら守り易し，宜しく南に奔る可し。」
光祿大夫の**譙周**は以為く、
「古より以來，他國に寄りて**天子**と為る者無し，今若し吳國に入れば，亦た當に臣服すべし。且つ政を治めること殊(ことな)ならざれば，則ち大能く小を吞む，此れ數之自然也。此に由り之を言えば，則ち魏は能く吳を並せ，吳は魏を並せる能わざるは明らかなり矣。等しく為に臣と稱せば，小の為にするは大の為にするに孰與(いずれ)ぞ！再辱（吳に逃げて、吳が魏にほろぼされると）之恥は一辱と何與(いずれ)ぞや！且つ若し南に奔らんと欲せば，則ち當に早（續は蚤）く之が計を為すべし，然る後に果たす可し。今大敵は已に近く，禍敗は將に及ばんとし，群小之心は，一も保つ可き無し，恐らくは發足する之日，其の變は測られず，何ぞ南に至ること之れ有らん乎！」
或は曰く、
「今**艾**は已に遠からず，恐らくは降を受けず，之を如何せん？」
周は曰く、
「方今、東吳は未だ賓せず，事勢は受けざるを得ず，之を受ければ禮せざるを得ず。若し**陛下**が魏に降り，魏が土を裂きて以て**陛下**を封ぜざる者ならば，**周**は請う身ずから京都（洛陽）に詣り，古義を以て之を爭わん。」
衆人は皆な**周**の議に從う。**漢主**は猶ほ南に入らんと欲し，狐疑して未だ決せず。**周**は上疏して曰く、
「南方は遠夷之地なり，平常供為する所無く（その民は既に稅租を出して以て上の用に供せず、又力を出して上の為に施為する所有らざるをいう），猶ほ數々反叛す，丞相の**亮**（70 卷文帝黃初六年にあり）が兵威を以て之に逼るより，窮して乃ち率從す。今若し南に至れば，外は當に敵を拒ぐべく，內は服御を供し，費用は張廣し，他には取る所無く，諸夷を耗損せん，其の叛するは必ずなり矣！」
漢主は乃ち侍中の**張紹**等を遣わして璽綬を奉じて以て**艾**に降る。北地王の**諶**は怒りて曰く、
「若し理窮まり力屈し，禍敗は將に及ばんとし，便ち當に父子君臣は城を背にして一戰し，同じく社稷に死し，以て**先帝**に見えるべくして可也，奈何ぞ降らん乎！」
漢主は聽かず。是の日，**諶**は昭烈之廟に哭し，先に妻子を殺し，而る後に自殺す。

■蜀［鄧艾は劉禪の降伏を受ける］**張紹**等は**鄧艾**を雒（廣漢郡に屬す、四川省西川道廣漢県東北、現・德陽市広漢市）に見る，**艾**は大いに喜び，報書して褒納す。**漢主**は太僕の**蔣顯**を遣わして別に**姜維**に敕して**鐘會**に降ら使む，又た尚書郎の**李虎**を遣わして士民の簿を**艾**に送る，戶は二十八萬，口は九十四萬，甲士は十萬二千，吏は四萬人なり。**艾**は成都の城北に至り，**漢主**（時に 48 才）は**太子・諸王及び群臣六十餘人を率い，面縛して櫬(ひつぎ)を輿いて軍門に詣る（二世 43 年にして滅ぶ）。**艾**は節を持し縛を解き櫬を焚き，延請して相い見る。將士

を檢御し，虜略するを得る無からしめ，降附を綏納し，舊業に復さ使む。輒ち**鄧禹**の故事（鄧禹が製を承けて隗囂に授けるの故事、光武帝劉秀の親友）に依り，製を承けて**漢主**の**禪**を拜して驃騎將軍を行わしめ，**太子**を奉車とし、諸王を駙馬都尉とし漢の群司を各々高下に隨いて拜して王官と為し，或は**艾**の官屬を領さしむ。**師纂**を以て益州刺史を領し，隴西太守の**牽弘**等を蜀中の諸郡に領せしむ。**艾**は**黃皓**の奸險なるを聞き，收めて閉じ，將に之を殺さんとし，**皓**は**艾**の左右に賂し，卒に以て免かるるを得る。

■蜀［姜維は鍾會に降る］**姜維**等は**諸葛瞻**の敗れるを聞き，未だ**漢主**の向かう所を知らず，乃ち軍を引いて東に巴（巴中、四川省嘉陵道巴中県、現・巴中市巴州区）に入る。**鐘會**は進軍して涪に至り，**胡烈**等を遣わして**維**を追わしむ。**維**は郪（廣漢郡の県、四川省嘉陵道三台県、現・綿陽市三台県）に至り，**漢主**の敕命を得，乃ち兵をして悉く仗（器仗、兵器）を放た令め，節傳を**胡烈**に送り，自ら東道より**廖化**、**張翼**、**董厥**等と同じく**會**に詣りて降る。將士は咸な怒り，拔刀して石を斫る（蜀の将士は人に降るを望まず、君主が用いる能わず）。是に於いて諸郡縣の圍守（魏延が置く所の漢中の諸圍の守兵）は皆な**漢主**の敕を被り兵を罷めて降る。**鍾會**は厚く**姜維**等を待ち，皆な權に其の印綬節蓋を還す。

呉［呉は丁奉の援軍中止］呉人は蜀の已に亡びたるを聞き，乃ち**丁奉**等の兵を罷む。呉の中書丞（呉の置く官）の吳郡の**華覈**は宮門に詣りて上表して曰く、

「伏して聞く成都は守られず，臣主は播越し，社稷は傾覆し，委附之土を失い，貢獻之國を棄てる，臣は草芥（綱目には草莽に作る）を以て，竊に懷いは寧からず。**陛下**は聖仁にして，恩澤は遠く撫でる，卒に此くの如きを聞けば，必ず哀悼を垂れん。**(5-090p)** 臣は忡悵（憂え悲しむ）之情に勝たず，謹んで拜表して以て聞す！」

呉［張悌は司馬氏の政治を評価］魏之伐蜀を伐つ也，呉人の或は襄陽の**張悌**に謂って曰く、

「**司馬氏**が政を得て以來，大難（王淩・毌丘倹・諸葛誕の三反）は屢々作(おこ)り，百姓は未だ服さず，今又た勞力して遠征するは，敗れるに暇あらず，何を以てか能く克つや！」

悌は曰く、

「然らず。**曹操**の功は中夏を蓋うと雖も，民は其の威を畏れ而るに其の德に懷かざる也。**丕**、**睿**は之を承け，刑は繁く役は重く，東西驅馳し，寧歲有る無し。**司馬懿**父子は累りに大功有り，其の煩苛を除いて而して其の平惠（綱目には恩惠）を布き，之が謀主と為り而して其の疾苦を救い，民の心は之に歸して亦た已に久し矣。故に淮南の三叛（王淩・毌丘倹・諸葛誕）も，而も腹心は擾えず。**曹髦**之死するや，四方動かず。賢に任じ能を使い，各々其の心を盡くす，其の本根は固く矣，奸計立てり矣。今蜀は閹宦（宦官）朝を專らにし，國に政令無く，而して戎を玩び武を黷(けが)し，民は勞し卒は瘁(つか)れ，外利を競い，守備を修めず。彼は強弱同じからず，智算は亦た勝る，危きに因りて而して伐つ，殆んど克たざる無し。噫！彼之志を得るは，我之憂い也。」

呉人は其の言を笑い，是に至りて乃ち服す。

呉［武陵の五溪の夷の討伐］呉人は武陵（湖南省武陵道常德県、現・常德市武陵区）の五溪の夷が蜀と界を接するを以て，蜀が亡び，其の叛亂するを懼れ，乃ち越騎校尉の**鐘離牧**を以て武陵太守を領せしむ。魏は已に漢葭縣（漢の獻帝建安六年劉璋は涪陵県を以て分けて丹興・漢葭二県を立てる）長の**郭純**を遣わして試みに武陵太守を守らしめ，涪陵（四川省東川道彭水県、現・重慶市涪陵区）の民を率いて遷陵（湖南省辰沅道保靖県の東、現・湘西土家族苗族自治州保靖県）の界に入り，赤沙（湖南省武陵道華容県の南、現・岳陽市華容県）に屯し，諸夷を誘動して酉陽（県、四川省東

川道酉陽県、現・酉陽土家族苗族自治県）に進攻せしめ，郡中は震い懼れる。**牧**は朝吏（郡朝の吏）に問いて曰く、
「西の蜀は傾覆し，邊境は侵せられる，何を以て之を御ぐや？」
皆な對えて曰く、
「今二縣は山險にして，諸夷は兵を阻み，軍を以て驚擾す可からず，驚擾すれば則ち諸夷は盤結せん。宜しく漸を以て安んずべし，恩信吏を遣わして教を宣べ慰勞す可し。」
牧は曰く、
「然らず。外境內侵し，人民を誑誘し，當に其の根柢未だ深からざるに及び而して之を撲取すべし，此れ火を救うは速かなるを貴ぶ之勢い也。」
外に敕して趣(すみや)かに嚴せしむ。撫夷將軍の**高尚**は**牧**に謂って曰く、
「昔**潘**（続。淵×、72 巻明帝太和五年にあり）太常は兵五萬を督し，然る後に五溪の夷を討つ。是の時**劉氏**は連和し，諸夷は化に率う。今既に往日之援無く，而して**郭純**は已に遷陵に據る，而るに明府は三千の兵を以て深く入らんと欲し，尚ほ未だ其の利を見ざる也。」
牧は曰く、
「非常之事は，何ぞ舊に循うを得ん！」
即ち所領を率いて晨夜道を進み，山險に緣いて行くこと二千里に垂々とし，惡民の異心を懷く者、魁帥百餘人，及び其の支黨の凡そ千餘級を斬る。**純**等は散走し，五溪は皆な平らぐ。

■十二月，庚戌（46-28+1=１９日），司徒の**鄭沖**を以て太保と為す。**(5-091p)**
■壬子（48-28+1=２１日），益州を分けて梁州と為す。
■癸丑（49-28+1=２２日），特に益州の士民を赦し，租稅之半を復除すること五年。
■乙卯（51-28+1=２４日），**鄧艾**を以て太尉と為し，邑二萬戶を增す。**鍾會**を司徒と為し，邑萬戶を增す。
■皇太后の**郭氏**は殂す。

【鄧艾・鍾會・羌維の同床異夢】

■<u>［鄧艾は成都で驕り高ぶる］</u>**鄧艾**に成都に在り，頗る自ら矜伐（驕り高ぶる）し，蜀の士大夫に謂って曰く、
「諸君は賴(さいわ)いに**艾**に遭い，故に今日有るを得る耳。如し吳漢之徒に遇えば，已に殄滅せられん矣。」
艾は書を以て**晉公**の**昭**に言って曰く、
「兵に聲を先に而して實を後にする者有り，今蜀を平らぐる之勢いに因りて以て吳に乘ずれば，吳人は震え恐れん，席捲之時也。然るに大舉之後，將士は疲勞し，便（続、使×）ち用いる可からず，且く之を徐緩すべし。隴右の兵二萬人、蜀兵二萬人を留めて，鹽を煮て冶を興し，軍農の要用を為り，並せて舟船を作り，豫め流れに順う之事を為し、然る後に使を發し告げるに利害を以てすれば，吳は必ず歸化せん，征せず而して定まる可き也。今宜しく**劉禪**に厚くし以て**孫休**を致すべし，**禪**を封じて扶風王と為し，其の資財を錫(たま)い，其の左右を供し，郡に董卓塢有り，之が宮捨と為し，其の子を爵して公侯と為し，郡內の縣を食わしめ，以て命に歸する之寵を顯す。廣陵、城陽（王国と為して以て孫休を待つ。徐州の廣陵郡は淮陰に治す、青州の城陽郡は莒に治す、二郡の境界は接す）を開き以て吳人を待てば，則ち威を畏れ德に懷(なつ)き，風を望んで而して從わん矣！」
昭は監軍の**衛瓘**をして**艾**を諭さ使め、

「事は當に報を須(ま)つべし，宜しく輒ち行うべからず。」
艾は重ねて言って曰く、
「命を銜めて征行し，指授之策を奉じ，元惡は既に服す。製を承けて拜假し，以て初附を安んずるに至りては，謂えらく權宜に合わん。今蜀は衆を擧げて命に歸し，地は南海を盡くし，東に吳、會に接す，宜しく早く鎮定すべし。若し國命を待てば，道途に往復し，日月を延引せん。《春秋》之義に，『大夫は疆(さかい)を出で，以て社稷を安んじ、國家を利す可き有れば，之を專らにすも可也。』(公羊傳の言) 今吳は未だ賓(服從)せず，勢いは蜀と連なり，常に拘(かかわ)り，以て事機を失う可からず。《兵法》に、『進みて名を求めず，退きて罪を避けず。』(孫子の言) **艾**は古人之節無しと雖も，終に自ら嫌(うたが)いて以て國家の計を損せざる也！」
■［姜維は鐘會をけしかけ、鐘會は鄧艾を陷れる］**鐘會**は內に異志有り，**姜維**は之を知り，擾亂をせんと欲し，乃ち**會**を說いて曰く、
「聞く、君は淮南(諸葛誕を平定)より已來，算に遺策無く，晉の道が克く昌(さかん)なるは，皆な君之力なり。今復た蜀を定め，威德は世に振い，民は其の功を高しとし，主は其の謀を畏れる，此を以て安くに歸せんと欲する乎！ (5-092p) 何ぞ**陶朱公**(越の大夫范蠡は既に越王勾踐と與に吳を滅ぼし、以て會稽の恥を雪ぎ、乃ち扁舟、五湖に汎びて、陶に止まり、その跡を斷たんと欲し、乃ち号して陶朱公という)に法(のっと)りて舟を泛べ跡を絕ち，功を全くし身を保たざる邪！」
會は曰く、
「君の言は遠し矣，我は行う能わず。且つ今之道爲(た)る，或は未だ此に盡きざる也。」
維は曰く、
「其の他は則ち君の智力之能くする所，老夫を煩わす無し矣。」
是に由り情好は歡すること甚しく，出でて則ち輿(續は轝)を同じくし，坐すれば則ち同席す。**會**は**鄧艾**が製を承け事を專らにするに因りて，乃ち**衛瓘**と密かに、
「**艾**は反狀有り。」
と白す。**會**は善く人の書に效(なら)い(筆跡を真似して偽造する)，劍閣に於いて**艾**の章表(魏朝に奏する文)、白事(晉公に上申する文)を要し，皆な其の言を易え，辭指をして悖傲(狂悖傲慢)にして，多く自ら矜伐せ令む。又た**晉公**の**昭**の報書を毀(やぶ)り，手ずから作りて以て之(鄧艾)を疑わす(司馬昭を怒らせ、鄧艾を疑わせ、離間を謀る)。

元皇帝下咸熙元年（甲申，２６４年）

■［司馬昭は鄧艾を檻車で召還、帝を長安に行幸させる］春，正月，壬辰（28-58+1=３１日），詔して檻車を以て**鄧艾**を征す。**晉公**の**昭**は**艾**の命に從わざるを恐れ，**鐘會**に敕して進みて成都に軍せしめ，又た**賈充**を遣わして兵を將いて斜谷に入らしむ。**昭**は自ら大軍を將いて**帝**の長安に幸すに從う，諸王公皆な鄴に在る(楚王彪の死するや鄴に置く、75 卷嘉平二年)を以て，乃ち**山濤**を以て行軍司馬(この号はここに始まる)と爲し，鄴に鎮せしむ。
■［鐘會の危うさの指摘］初め，**鐘會**は才能を以て任じられ，**昭**の夫人の**王氏**(王肅の女、晉の武帝・齊王攸を生む、後の文明皇后)は**昭**に言って曰く、
「**會**は利を見て義を忘れ，好みて事端を爲す，寵過ぎれば必ず亂すべし，大任す可からず。」
會が將に漢を伐たんとするに及びて，西曹屬(丞相に東西曹の掾屬あり)の**邵悌**は**晉公**に言って曰く、
「今**鐘會**を遣わし十萬餘の衆を率いて蜀を伐たしむ，愚は謂えらく**會**(續、令×)は單身にして任(人質)無

し，餘人をして行か使むに若かざる也。」
晉公は笑いて曰く、
「我は寧んぞ此を知らざる邪！蜀は數々邊寇を為し，師老い民は疲れ，我が今之を伐つは，掌(たなごころ)を指すが如き耳，而るに衆は方（続は言）に蜀は伐つ可からずと。夫れ人心は豫め怯え則ち智勇は並びて竭く，智勇並びて竭けば而も強いて之を使えば，適(まさ)に敵の禽と為る所以耳。惟だ**鐘會**のみ人の意（我が意）と同じ，今**會**を遣わして蜀を伐たしめば，蜀は必ず滅ぼす可し。蜀を滅ぼす之後，就え卿の慮り（鐘會の反乱）の如くならば，何ぞ其の辦ず能わざるを憂えん邪？夫れ蜀已に破亡すれば，遺民は震え恐れ，與に共に事を圖るに足らず。中國の將士は各々自ら歸らんと思い，肯えて與に同じうせざる也。**會**が若し惡（反乱）を作せば，只だ自ら滅族する耳。卿此を憂うるを須(もち)いず，慎んで人をして聞か使む勿かれ也！」
晉公が將に長安に之かんとするに及び，**悌**は復た曰く、
「**鐘會**の統べる所の兵は**鄧艾**に五六倍す，但だ**會**に敕して**艾**を取る可し，自ら行くを須(もち)いず。」
晉公は曰く、
「卿は前言を忘れる邪 **(5-093p)**，而して、行くを須いずと雲う乎？然りと雖も，言う所は宣べる可からざる也。我は要(かなら)ず自ら當に信意を以て人を待つべし，但だ人は當に我に負くべからざる耳，我は豈に人に先んじて心を生ず可けん哉！近日**賈護軍**（賈充は中護軍）は我に問う、『頗る**鐘會**を疑うや不や？』還（続は我）りて答えて言わく、『如今(いま)卿を遣わして行かしめば，寧んぞ復た卿を疑う可けん邪？』**賈**も亦た以て我が語を易える無き也。我は長安に到れば，則ち自ら了（弁決）せん矣。」
■<u>［衛瓘は鄧艾を巧妙に収監］</u>**鐘會**は**衛瓘**を遣わして先ず成都に至り**鄧艾**を收めしめ，**會**は**瓘**の兵少なきを以て，**艾**をして**瓘**を殺さ令め，因りて以て**艾**の罪と為さんと欲す。**瓘**は其の意を知り，然れども距(こば)むを得る可からず，乃ち夜成都に至り，**艾**が統べる所の諸將を檄し，稱す、
「詔を奉じて**艾**を收める，其の餘は一つも問う所無し。若し來たりて官軍に赴けば，爵賞は先（蜀を平らげた時）の如くならん。敢えて出でざる有れば，誅は三族に及ばん！」
雞鳴に至る比(ころ)おい，悉く來たりて**瓘**に赴き，唯だ**艾**の帳內のみ焉に在り。平旦，開門し，**瓘**は使者の車に乘り，逕ちに入りて**艾**の<u>居（続は無し）</u>る所に至る。**艾**は尚ほ臥して未だ起きず，遂に**艾**の父子を執り，**艾**を檻車に置く。諸將は圖りて**艾**を劫さんと欲し，仗を整えて瓘の營に趣く。瓘は輕く出でて之を迎え，偽りて表草を作り，
「將に**艾**の（叛く心の無いこと、という詐り）事を申明せんとす」
と，諸將は之を信じて而して止む。
■<u>［鐘會の反乱計画、司馬昭長安進出に驚く］</u>丙子（12+60-58+1=１５日），**會**は成都に至り，**艾**が京師に赴くを送る。**會**が憚る所は惟だ**艾**のみ，**艾**父子は既に禽となり，**會**は獨り大衆を統べ，威は西土に震い，遂に謀反を決意す。**會**は**姜維**をして五萬人を將いて斜谷を出でて前驅と為さ使め，**會**は自ら大衆を將いて其の後に隨い，既に長安に至れば，令騎士をして陸道より，步兵をして水道よりし，流れに順い渭（渭水）に浮び河（黄河）に入らんと欲し，以て為す、
「五日にして孟津に到る可し，騎兵と洛陽に會せん，一旦にして天下は定める可き也。」
會は**晉公**の書を得る、云わく、
「**鄧艾**が或いは征に就かざるを恐れ，今中護軍の**賈充**を遣わして步騎萬人を將いて徑ちに斜谷に入り，樂城（諸葛亮が成固に築く城）に屯せしめん，吾は自ら十萬を將して長安に屯し，相い見ること近きに在り。」
會は書を得て驚き，親する所を呼びて之に語りて曰く、

「但だ**鄧艾**を取るは，相國（司馬昭）は我が獨り之を辦じるを知る。今來たるは大いに重し，必ず我が異（異心、叛意）を覺るべし矣，便ち當に速かに發すべし。事成れば，天下を得る可し。成らざれば，退きて蜀、漢（蜀郡・漢中郡）を保たん，**劉備**を作るを失わざらん也！」

【成都大混乱】

■［鐘會は成都で諸将を監禁］丁丑（13+60−58+1=１６日），**會**は悉（続、番×）く護軍、郡守、牙門騎督以上（皆な鐘會に従って成都に入る人々）及び蜀之故官を請い，**太后**（郭太后、前年殂す）の為に哀を蜀の朝堂（成都にあり）に發し，**太后**が遺詔して，**會**をして兵を起こして**司馬昭**を廢せ使むと矯り，皆な坐上の人に班ちて示し，議を下さ使め訖（おわ）り，版に書して署置し，更に親信する所をして代りて諸軍を領せ使む。請う所の群官は，悉（続、番×）く益州の諸曹屋の中に閉著し，**(5-094p)** 城門宮門は皆な閉じ，嚴兵して圍み守る。**衛瓘**は疾い篤しと詐稱し，出でて外廨（外の舍）に就く。**會**は之を信じ，復た憚る所無し。

■［羌維は鐘會を利用して漢復興を画策］**姜維**は**會**をして盡く北來の諸將を殺さ使め，己は因りて**會**を殺し，盡く魏兵を坑し，復た**漢主**を立てんと欲し，密かに書を**劉禪**に與えて曰く、

「願わくは**陛下**は數日之辱を忍ぶべし，臣は社稷をして危く而して復た安く，日月をして幽に而して復た明らかなら使めんと欲す。」

會は**維**の言に從い諸將を誅さんと欲し，猶豫して未た決せず。

■［成都大虐殺、羌維・鐘會戰死］**會**の帳下督の**丘建**は本は**胡烈**に屬し，**會**は之を愛信す。**建**は**烈**が獨り坐するを愍み，**會**に啟し，一親兵を內れ出でて飲食を取るを聽さ使む，諸牙門は例に隨い各々內一人を入れる。**烈**は紿（あざむ）きて親兵に語り及び疏して其の子の**淵**に與えて曰く、

「**丘建**は密かに消息を說く，**會**は已に大坑，白棓（棒）數千を作り，悉く外兵を呼び入れて，人ごとに白帕（巾扁の文字）（白い被り物、魏の武帝の製する所にして状は弁の如く四角を欠ける）を賜い，散將に拜し，次を以て棓殺し，坑中に內れんと欲す。」

諸牙門の親兵は亦た咸な此の語を說き，一夜にして，轉じて相い告げ，皆な逼し。己卯（15+60−58+1=１８日），日中，**胡淵**は其の父の兵を率いて雷鼓して門を出，諸軍は期せずして皆な鼓噪し而して出で，曾て之を督促する者無く，而も爭いて先ず城に赴く。時に**會**は方に**姜維**に鎧仗を給し，

「外に匈匈たる聲，失火するに似たる者有り」

と白し，頃（しばらく）有りて，

「兵は走りて城に向かう。」

と白す。**會**は驚き，**維**に謂って曰く、

「兵來たるは惡を作さんと欲するに似たり，當に云何せん？」

維は曰く、

「但だ當に之を擊つべき耳！」

會は兵を遣わして悉く閉じる所の諸牙門郡守を殺さしむ。內人（監禁された屋內の者）は共に機（机）を擧げて以て門を拄ぎ，兵は門を斫るも，破る能わず。斯須（しばらく）して，城外梯に倚りて城に登り，或は城屋を燒き，蟻のごとく附きて亂れ進み，矢下ること雨の如く，牙門郡守は各々屋に緣りて出で，其の軍士と相い得たり。**姜維**は**會**の左右を率いて戰い，手ずから五六人を殺すも，衆は**維**を格斬し，爭い前みて**會**を殺す。**會**の將士の死者は數百人，漢の太子の**璿**及び**姜維**の妻子を殺し，軍衆鈔略し，死喪狼藉す。**衛瓘**は諸將を部分し，數日にして乃ち定まる。

■［鄧艾誅殺される］**鄧艾**の本營の將士は追いて**艾**を檻車より出し，迎え還る。**衛瓘**は自ら**會**と共に**艾**を陷れるを以て，其の變を為さんことを恐れ，乃ち護軍の**田續**等を遣わして兵を將いて**艾**を襲わしめ，綿竹の西に遇い，**艾**の父子を斬る。**艾**之江油に入る也，**田續**は進まず，**艾**は**續**を斬らんと欲し，既に而して之を捨す。**瓘**が**續**を遣わすに及びて，謂って曰く、

「以て江油之辱を報いる可し矣。」

鎮西長史の**杜預**は衆に言って曰く、（衛瓘は鎮西軍司を行い杜預の同僚）

「**伯玉**（衛瓘の字）は其れ免かれざらん乎？身は名士と為り，位望は已に高く，既に德音無く，又た下を御するに正を以てせず，將たまた何を以て其の責に堪えん乎！」

瓘は之を聞き，駕を候たず而して**預**に謝す。**預**，**恕**（73 巻明帝景初元年にあり）之子也。**鄧艾**の餘子の洛陽に在る者は悉く伏して誅せらる。**(5-095p)** 其の妻及び孫は西城（魏興郡の県、陝西省漢中道安康県の西北、現・安康市漢浜区）に徙せらる。

■［**鐘會の功曹の向雄は收葬**］**鐘會**の兄の**毓**は嘗て密に**晉公**に言って曰く、

「**會**は術を挾みて保ち難く，專ら任ず可からず。」

會が反するに及び，**毓**は已に卒し，**晉公**は**鐘繇**之勳と**毓**之賢を思い，特に**毓**の子の**峻**、**迪**を原し，官爵は故の如し。**會**の功曹の**向雄**は**會**の屍を收め葬る。**晉公**は召し而して之を責めて曰く、

「往者**王經**之死（前卷景元元年にあり）するや，卿は東市に哭し而して我は問わず。**鐘會**は躬ら叛逆を為し，又た輒ち收め葬す，若し復た相い容れれば，當に**王法**を如何すべきや！」

雄は曰く、

「昔**先王**は骼（枯れた骨）を掩い胔（肉ある骨）を埋め（禮記月令篇に、孟春の月、骼を掩い胔を埋む），仁は朽骨に流れ，當時豈に先ず其の功罪を卜し而る後に收め葬らん哉！今王誅既に加わり，法に於いて已に備わる。**雄**は義に感じて收葬し，教えも亦た闕ける無し。法は上に立ち，教えは下に弘まり，此を以て物を訓えば，亦た可ならず乎？何ぞ必ずしも**雄**をして死に背き生に違い，以て世に立た使めんや！明公は枯骨を讎懟とし，之を中野に捐てるは，豈に仁賢之度なる哉！」（鐘會は既に誅せられたのに、枯骨を讐敵として收葬しないことをいう）

晉公は悅び，與に宴談し而して之を遣る。

■二月，丙辰（52-27+1=２６日），車駕は洛陽に還る。

■庚申（56-27+1=３０日），**明元皇后**（郭太后）を葬す。

【司馬昭は晉王、劉禪を厚遇】

■呉［巴東の羅憲の防衛戦］初め，**劉禪**は巴東太守の襄陽の**羅憲**をして兵二千人を將して永安（四川省東川道奉節県の東、現・重慶市奉節県）を守ら使め，成都の敗れるを聞き，吏民は驚擾す。**憲**は、

「成都亂れる」

と稱する者一人を斬り，百姓は乃ち定まる。**禪**の手敕を得るに及び，乃ち統べる所を帥い（永安の）都亭に臨むこと三日。吳は蜀敗れると聞き，兵を起こして西上し，外は救援に托し，內は**憲**を襲わんと欲す。**憲**は曰く、

「本朝は傾覆し，吳は脣齒と為り，我が難を恤えず而して盟に背き利を徼めるは，不義なること甚だし矣。且つ漢は已に亡び，吳は何ぞ久しきを得ん？我は寧ぞ能く吳の降虜と為らん乎！」

城を保ち甲を繕い，将士に告誓し，厲まず節義を以てし，憤激せざるは莫し。呉人は**鐘**、**鄧**の敗れ，百城に主無きを聞き，蜀を兼ねる之志有り，而るに巴東は固く守り，兵は過ぎるを得ず，乃ち撫軍の**歩協**（歩騭の長子、撫軍将軍）をして衆を率い而して西せ使む。**憲**は力弱く御ぐ能わず，参軍の**楊宗**を遣わして圍みを突きて北に出で，急を安東将軍の**陳騫**に告げしめ，又た文武の印綬、任子を送り**晉公**に詣らしむ。**協**は永安を攻める，**憲**は與に戦い，大いに之を破る。**呉主**は怒り，復た鎮軍の**陸抗**（鎮軍将軍、西陵を都督）等を遣わして衆三萬人を帥いて**憲**之圍を増さしむ。

■三月，丁丑（13+60-57+1=１７日），司空の**王祥**を以て太尉と為し，征北將軍の**何曾**を司徒と為し，左僕射の**荀顗**を司空と為す。

■［王祥は晉王司馬昭に拝さず］己卯（15+60-57+1=１９日），**晉公**の爵を進めて**王**と為し，十郡（高貴郷の甘露三年にに八郡に封じられ、景元三年に司州の弘農・雍州の馮翊を加封、今また十郡を加え凡そ二十郡）を増封す。**王祥**、**何曾**、**荀顗**は共に**晉王**に詣り，**顗**は**祥**に謂って曰く、

「**相王**は尊重にして，**何侯**（何曾）と一朝之臣（魏の擧朝の臣なり）と皆な已に敬を盡せり，今日便ち當に相い率い而して拝すべし，疑う所無き也。」

祥は曰く、

「**相國**は尊しと雖も，要するに是れ魏之宰相なり，吾等は魏之三公なり，王、公は相い去ること一階に而して已む，安んぞ**天子**の三公にして輒ち人を拝す可き者有らんや！（若し之を拝せば）魏朝之望みを損し，**晉王**之徳を虧き，君子は人を愛するに禮を以てす，我は（之を拝するを）為さざる也。」

入るに及びて，**顗**は遂に拝し，而して**祥**は獨り長揖す。**王**は**祥**に謂って曰く、

「今日にして然る後に君が顧られる之重きを知る也！」

■［劉禪は洛陽に東遷］**劉禪**は家を舉げて洛陽に東遷し，時に擾攘倉卒にして，**禪**之大臣は從い行く者無し，惟だ秘書令の**郤正**及び殿中督の汝南の**張通**は妻子を捨てて單身**禪**に隨い，**禪**は**正**が相導すること宜しく適にして，舉動の闕ける無きを賴り，乃ち慨然として歎息し，**正**を知る之晚きを恨む。

■［南中の霍弋の硬骨］初め，漢の建寧（続、建棕×、漢の益州郡、蜀後主は建興元年に建寧と改称、味県に治す、雲南省旧雲南大理府、滇中道曲靖県の西十里、現・雲南省曲靖市麒麟区建寧街道）太守の**霍弋**は南中を都督し，魏兵の至るを聞き，成都に赴かんと欲し，**劉禪**は敵に備えること既に定まるを以て，聽さず。成都は守られず，**弋**は素服し大いに臨すること三日。諸將は咸な**弋**に宜しく速かに降るを勸め，**弋**は曰く、

「今道路は隔塞し，未だ**主**之安危を詳かにせず，去就は大故なり，苟くもす可からざる也。若し魏が禮を以て**主上**を遇すれば，則ち境を保ち而して降るとも晚からざる也。若し萬一にも危辱すれば，吾は將に死を以て之を拒がんとす，何ぞ遲速を論ぜん邪！」

禪の東遷之問（聞く）を得，始めて六郡（南中は七郡なるが、越巂は既に魏に降っていた）の將守を率い上表して曰く、

「臣は聞く人生は三に在り（蜀志霍峻傳には、人は三に生ず、に作る、三とは君・親・師），之に事えるは一の如し，惟だ難の在る所，則ち其の命を致す。今臣は國敗れ**主**附き，死を守るに所無し，是を以て質を委し，敢えて貳有らず。」

晉王は之を善しとし，南中都尉に拝し，委ねるに本任を以てす。

■［劉禪は蜀を懐かしまず］丁亥（23+60-57+1=２７日），**劉禪**を封じて安樂（燕国に属す）公と為し，子孫及び群臣封侯に封ぜらる者は五十餘人。**晉王**は**禪**と宴し，之が為に故の蜀伎（蜀の舞楽）を作す，旁人は皆な之が為に感愴し，而るに**禪**は喜び笑いて自若なり。**王**は**賈充**に謂って曰く、

「人之無情なること，乃ち是に至るか！**諸葛亮**をして在ら使むと雖も，之を輔けて久しく全くする能わ

ず，況んや**姜維**を邪！」
他日，**王**は**禪**に問いて曰く、
「頗る蜀を思うや否や？」
禪は曰く、
「此の間は樂し，蜀を思わざる也。」
郤正は之を聞き，**禪**に謂って曰く、
「若し**王**（続、正×）後に問えば，宜しく泣き而して答えるべし、『先人墳墓，遠く岷、蜀に在り，乃ち心は西に悲しみ，日思わざるは無し。』因りて其の目を閉じるべし。」
會々**王**は復た問い，**禪**（続、祥×）は對えること前の如し，**王**は曰く、
「何の乃ち**郤正**の語に似たる邪！」
禪は驚きて視て曰く、**(5-097p)**
「誠に尊（続は無し）の命の如し。」
左右は皆な笑う。

呉［呉の新附督］夏，四月，新附督（呉人の新たに附く者を以て別に一部と為し、督を置き以て之を領す）の**王稚**は海に浮かびて呉の句章（會稽郡の県、浙江省會稽道慈谿県、現・寧波市慈溪市）に入り，其の長吏及び男女二百餘口を略し而して還る。
■［五等の爵復活］五月，庚申（56-56+1=１日），**晉王**は奏して五等の爵（侯公伯子男、周の制度。秦は廃止、漢は戸数で差とし、獻帝建安 20 年に曹操は名號侯を置き以て軍功を譙す。虚封始まり、ここでも復するも虚封なり）を復し，騎督（蜀を平らげる功を賞す）以上六百餘人を封じる。
■甲戌（10+60-56+1=１５日），改元す。
■［司馬懿・司馬師を追尊］癸未（19+60-56+1=２４日），舞陽の文宣（続、主理×）侯の**懿**を追命して晉の**宣王**と為し，忠武侯の**師**を**景王**と為す。
■［羅憲は魏の支援で呉撃退］**羅憲**は攻められること凡そ六月，救援は到らず，城中の疾病は太半なり。或は**憲**に城を棄てて走るを說き，**憲**は曰く、
「吾は城主と為り，百姓の仰ぐ所なり。危くして安んずる能わず，急に而して之を棄てるは，君子は為さざる也，命を此に畢（お）えん矣！」
陳寔は**晉王**に言い，荊州刺史の**胡烈**を遣わして歩騎二萬を將して西陵を攻め以て**憲**を救わしむ。秋，七月，呉の師は退く。**晉王**は**憲**をして因りて舊任に仍ら使め，陵江將軍（魏の置く官、江流を陵駕し以て呉會を蕩平せんと欲する）を加え，萬年亭侯に封じる。
■［晉の制度充実］**晉王**は奏して司空の**荀顗**をして禮儀を定め使め，中護軍の**賈充**をして法律を正さしめ，尚書僕射の**裴秀**をして官制を議せしめ，太保の**鄭沖**をして總べ而して焉を裁せしむ。

呉呉は交州を分けて廣州を置く。（漢の武帝は元鼎元年に百越を開き、交趾州刺史を置き龍編に治す。獻帝建安八年に交州に改め、蒼梧廣信県に治す。十六年南海の番禺県に治す。この時廣州は番禺、交州は龍編に治す）
呉［孫休は殂す］**呉主**は疾に寢ね，口は言う能わず，乃ち手書して丞相の**濮陽興**を呼びて入れ，**子**［雨單］（続の字形、雨冠か?、音はワン）をして出でて之を拜せ令む。**休**（孫休）は**興**の臂を把り，［雨單］を指（続、把×）さして以て之を托（続は託）す。癸未（19+60-55=２５日），**呉主**は殂し，諡して**景帝**（年 13）と曰う。群

臣は**朱皇后**を尊びて**皇太后**と為す。

呉［呉は年長の孫皓を立てる］呉人は蜀が初めて亡び，交趾は攜叛し（呂興が反す事），國内は恐懼するを以て，長君を得んと欲す。左典軍の**萬彧**（続、萬×）は嘗て烏程（浙江省銭塘道呉興県、現・湖州市呉興区）令と為り，烏程侯の**皓**と相い善し，稱す、

「**皓**の才識は明斷なり，長沙の**桓王**（孫策の諡）之儔（たぐい）也。又た之に加えるに學を好み，法度を奉遵す。」

屢々之を丞相の**興**、左將軍の**布**に言い，**興**、**布**は**朱太后**を說き，**皓**（字は元宗、孫和の子）を以て嗣と為さんと欲す。**朱后**は曰く、

「我は寡婦人なり，安んぞ社稷之慮りを知らん，苟くも呉國隕ちる無く，宗廟は賴む有れば，可なり矣。」

是に於いて遂に迎えて**皓**を立て，改元して元興となし，大赦す。

■［司馬炎登場］八月，庚寅（26-24+1=３日），中撫軍の**司馬炎**に命じて相國の事を副貳（五官將の故事による）せしむ。

■［鐘琇は鐘會を諫めて助かる］初め，**鐘會**之漢を伐つ也，**辛憲英**は其の夫之從子の**羊祜**に謂って曰く、

「**會**は事に在りて縱恣なり，久しきを持し下に處る之道に非ず，吾は其の他志有るを畏れる也。」

會は其の子の郎中の**琇**を請いて參軍と為し，**憲英**は憂いて曰く、

「他日吾は國の為に憂い，今日難は吾が家に至る矣。」

琇は固く**晉王**に請い，**王**は聽かず。**憲英**は**琇**に謂って曰く、

「行け矣，之を戒めよ，軍旅之間は，以て濟す可き者は，其れ惟だ仁恕乎！」

琇は竟に全きを以て歸る。癸巳（29-24+1=６日），詔して**琇**（司馬師の夫人の從父弟）が嘗て**會**の反するを諫めたるを以て，爵の關內侯を賜う。

■九月，戊午（54-54+1=１日），**司馬炎**を以て撫軍大將軍と為す。

■［魏は呂興を支援も殺される］辛未（7+60-54+1=１４日），詔して**呂興**を以て安南將軍と為し，交州諸軍事を都督せしめ，南中監軍の**霍弋**を以て遙かに（間の呉の混乱に乘じて）交州刺史を領し，便宜を以て長吏を選用するを得しむ。**弋**は表して建寧の**爨谷**（爨氏は建寧の大姓なり。越巂、昆明を根拠地とする）を遣わして交趾太守と為し，牙門の**董元**、**毛炅**、**孟幹**、**孟通**、**爨能**、**李松**、**王素**等を率いて兵を將いて**興**を助けしむ。未だ至らず，**興**は其の功曹の**李統**の殺す所と為る。

呉**呉主**は**朱太后**を貶して**景皇后**と為し，父の**和**を追謚して**文皇帝**と曰い，母の**何氏**を尊びて**太后**と為す。

呉［大信を開廣］冬，十月，丁亥（23-23+1=１日），詔して壽春に獲る所の呉の相國參軍事の**徐紹**を以て散騎常侍と為し，水曹掾（呉の相府の置く所、呉は未だ相国を置かず）の**孫彧**を給事黃門侍郎と為し，以て呉に使いせしめ，其の家人の此に在る者は悉く自ら隨うを聽し，必ずしも還ら使めず，以て大信を開廣（中国の信を広くし呉人を慰撫）す。**晉王**は因りて書を**呉主**に致（続、政×）し，諭すに禍福を以てす。

■［晉王は司馬炎を世子とす］初め，**晉王**は**王肅**之女を娶り，**炎**及び**攸**を生み，**攸**を以て**景王**の後（続、后?）を繼がしむ。**攸**は性孝友にして，材藝多く，清和平允にして，名は**炎**に過ぎると聞く。**晉王**は之を愛し，常に曰く、

「天下者，**景王**之天下也，吾は攝して相位に居る，百年之後，大業は宜しく**攸**に歸すべし。」

炎は立ちて委地に發し，手は垂れて膝を過ぎ，嘗て從容として**裴秀**に問いて曰く、

「人は相有るや否や？」

因りて異相を以て之に示す。**秀**は是に由りて心を歸す。**羊琇**は**炎**と善し，**炎**の為に畫策し，時政の宜しく損益する所を察し，皆な**炎**をして豫め之を記さ令め，以て**晉王**の訪問に備える。**晉王**は**攸**を以て世子と為さんと欲し，**山濤**は曰く、

「長を廢して少を立てるは，禮に違いて不祥なり。」

賈充は曰く、

「中撫軍は人に君たる之德有り，易える可からざる也。」

何曾、**裴秀**は曰く、

「中撫軍は聰明神武にして，世を超える之才有り，人望は既に茂(さか)んにして，天表は此くの如し，固(まこと)に人臣之相に非ざる也。」

晉王は是に由りて意定まり，丙午（42-23+1=２０日），**炎**を立てて世子と為す。

【孫皓は本性顕わす】

呉**呉主**は**太子**の［**雨單**］及び其の三弟を封じて皆な王と為し，妃の**滕氏**を立てて**皇后**と為す。

呉［**呉主は粗暴驕盈、濮陽興・張布を誅殺**］初め，**呉主**之立つや，優詔を發して，士民を恤み，倉廩を開き，貧乏を振わし，(5-099p) 宮女を科出して以て妻無き者に配し，禽獣の苑中に養う者は皆な之を放つ。當時翕然として稱して**明主**と為す。既に志を得るに及び，粗暴驕盈（続く矣盈?）にして，忌諱多く，酒色を好み，大小は失望し，**濮陽興**、**張布**は竊に之を悔いる。或は諸々を**呉主**に譖り，十一月，朔（丁巳、53-53+1=１日），**興**、**布**は入朝し，**呉主**は之を執り，廣州に徙し，道にて之を殺し，三族を夷ぐ。**后**の父の**滕牧**を以て衛將軍と為し，尚書事を錄さしむ。**牧**は，**胤**（孫綝に殺される）之族人也。

■是の歳，屯田官を罷める。(62 巻漢の獻帝建安元年に置く)

令和４年８月１日　　翻訳開始　　9977 文字

令和４年８月７日　　翻訳終了　　21813 文字